

陸田家蔵書からみた江戸時代と明治時代

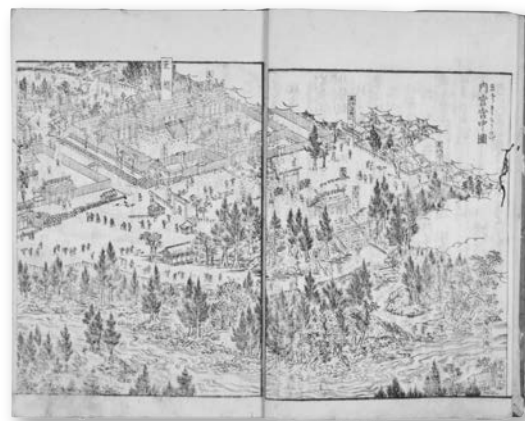
氷見市窟の素封家陸田家は、代々の当主が九左衛門を名乗ることが多かったため、“窟のくざんどん”と呼ばれていました。

平成30年に、博物館はこの陸田家から、1214冊にのぼる古書の寄贈を受けました。特別展では、これらの古書の中から代表的なものを展示し、紹介します。

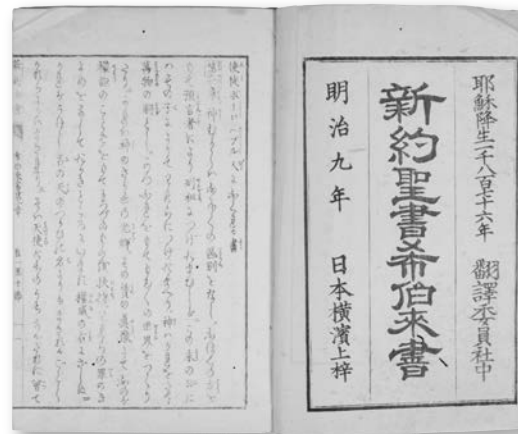
陸田家の古書は、江戸時代から明治時代のもので、宗教、文学、歴史・地理、政治・経済、理学、芸術、武学・武術など、幅広い分野にわたります。近世から近代にかけて、村の指導者の立場にあった陸田家が、どのような書籍を所蔵していたのかは、地域の歴史を知る上で興味深いものです。

また蔵書の中には、陸田家の親族で、33年間の日記「応響雑記」を著した江戸後期の氷見町町人、田中屋権右衛門が書き写した本が多数含まれていました。

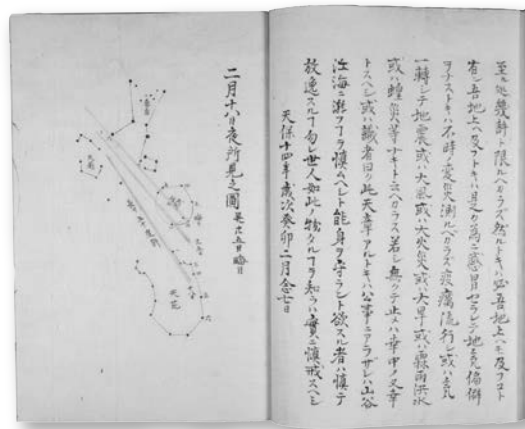
知の宝庫ともいえるこれら古書の世界を、この機会にぜひご覧ください。



『伊勢参宮名所図絵』
寛政9年（1797）内宮宮中図



『新約聖書希伯来書』明治9年（1876）



『雪島記聞』天保14年（1843）2月に出現した彗星を田中屋権右衛門が記録したものの。

氷見市立博物館

〒935-0016 富山県氷見市本町4番9号
TEL.0766-74-8231 FAX.0766-30-7188
E-mail : hakubutsukan@city.himi.lg.jp
U R L : <https://www.city.himi.toyama.jp/section/museum/>

●交通機関

鉄 道／JR 氷見線氷見駅下車、北西へ500m 徒歩7分。

バ ス／高岡駅前から加越能交通バス氷見方面行、「南大町口」下車、徒歩1分。

自動車／能越自動車道氷見インターから東に3km。

●氷見市立博物館は、氷見市教育文化センター内にあります。

